

# 令和8年度中堅寄宿舍指導員資質向上研修 実施計画

宮城県教育委員会

## 1 目的

寄宿舍指導員としての経験を踏まえ、専門的・実践的な研修を行い、その資質と実践力の更なる向上を図る。

## 2 主催

宮城県教育委員会

## 3 対象

高等学校及び特別支援学校の在職経験10年経過11年目の寄宿舍指導員（以下、「当該中堅職員」という。）とする。 ※過年度未受講者を含む。

なお、下記に留意のこと。

### (1) 在職期間について

- ① 在職期間は、高等学校及び特別支援学校の寄宿舍指導員として在職した期間（臨時的に任用された期間を除く。）を通算した期間とする。
- ② 県外及び私立の学校の寄宿舍指導員として在職した期間（臨時的に任用された期間を除く）があるときは、その期間を、当該在職期間に通算するものとする。
- ③ 在職期間のうち、次に掲げる期間が引き続き1年以上ある場合は、その期間の年数（1年未満の端数があるときは、これを切り捨てた年数）を当該在職期間から除算する。
  - ア 休職又は停職により現実に職務を執ることを要しない期間
  - イ 育児休業をした期間
  - ウ 配偶者同行休業等をした期間
  - エ 職員団体の役員として専ら従事した期間

### (2) 次の者は対象者から除く。

- ① 臨時的に任用された者
- ② 他の任命権者が実施する中堅寄宿舍指導員資質向上研修に相当する研修を受けた者

## 4 内容

研修内容は、次のとおりとする。

- (1) 校外研修 3日（基本研修2日、専門研修1日）
- (2) 校内研修 2日

## 5 校外研修

### (1) 基本研修・専門研修について

No.	研修名	期日及び対象	研修内容	会場
1	基本研修 1	令和8年 5月22日（金） （実・寄5年研・中堅研一部合同）	講義「中堅寄宿舍指導員への期待とその役割」 講義「学校職員の服務と研修」 講義・演習「生徒理解と教育相談」 協議「実践上の諸課題について」	総合教育センター
2	専門研修	7月10日（金） （寄新採研・5年研・中堅研合同）	講義「学校の教育活動と寄宿舍指導員に求められるもの」 参観「授業参観及び寄宿舍・施設等の見学」 講義「寄宿舍指導員の果たすべき役割と寄宿舍での生活指導」 協議「生活指導上の諸課題について」	聴覚支援学校
3	基本研修 2	9月11日（金） （実・寄5年研・中堅研合同）	講義・演習「特別支援教育について」 講義「学校安全・防災教育について」 演習「学校安全・防災教育の実践について」	総合教育センター

## (2) 受講に係る留意事項

- ① この研修の受講に関する申込手続は、当該中堅職員が、Plant から指定された期日までに、確実に行う。詳しくは、「令和8年度宮城県教職員研修計画」の「2研修会の受講に当たって」を参照すること。
- ② 総合教育センターが実施する研修については、当該中堅職員が、Plant の研修情報を確認し、準備を行う。
- ③ 校外研修を欠席等する場合
  - ア 中堅寄宿舍指導員資質向上研修は、悉皆研修である。そのため、やむを得ない理由以外による欠席、遅刻、早退若しくは欠課（以下、「欠席等」という。）は認めない。
  - イ 欠席等する場合、教頭等は総合教育センター教職研修班（022-784-3558）に電話連絡し、その後、速やかに「欠席届」（センター様式第1号）（「令和8年度宮城県教職員研修計画」を参照）を総合教育センター所長宛てに提出する。
  - ウ 欠席等した研修の補充については、欠席事由や研修内容などにより対応が異なるため、研修担当指導主事から直接指示を受ける。
  - エ 欠席した研修の補充ができない場合、原則として、補充できなかった研修のみ次年度受講とし、「校内研修報告書」（様式1）は、本研修のすべてを受講終了した年度末に作成し、所定のルートで提出する。
- ④ 受講延期について
  - ア やむを得ない理由で受講を延期する場合、校長は、速やかに当該職員の「期日変更・延期願」（「令和8年度宮城県教職員研修計画」を参照）を、総合教育センター所長宛てに提出する（提出方法及びルートは上記「欠席届」と同様）。
  - イ 「延期願」（センター様式第2号）は年度ごとに許可されるため、原則として年度初めに提出する。ただし、延期が複数年度にまたがる場合は、毎年、年度始めに延期願を提出する。

## 6 校内研修

- (1) 校内研修は、2日実施する。1日当たりの研修時間は3時間を目安とするが、複数日に分けて実施することも可能とする。いずれの際も、あらかじめ各学校の年間計画や月間計画に組み入れるなど、計画的に実施するための措置を講じる。
- (2) 校内研修については、校長、副校長、教頭、主幹教諭、教諭等の指導及び助言の下、これまでの寄宿舍指導員としての経験を踏まえ、生徒指導に関する事項、学校組織の一員としての協働性に関する事項等の中で個々の課題に関する研修を設定し、年度当初に校内研修計画を作成し、実施する。

## 7 校内研修報告書の作成と提出

校長は、研修実施後、「校内研修報告書」（様式1）を作成し、令和9年1月29日（金）までに総合教育センターに提出する。

## 8 関係様式

### ■ 中堅寄宿舍指導員資質向上研修に係る作成文書一覧

様式	文書名	作成者	提出期限
様式1 (P. 4)	校内研修報告書	当該中堅職員 → 校長	締切：令和9年1月29日（金）

- (1) 上記の様式は、総合教育センターホームページからダウンロードして使用すること。

◆総合教育センター <https://www.pref.miyagi.jp/site/sokyos/>

「各種様式ダウンロード」→「中堅教諭等資質向上研修」→「中堅教諭等資質向上研修様式（実習助手・寄宿舍指導員）」

- (2) 提出方法と提出先

(PDF)  
校長 →→ 総合教育センター

※総合教育センターへの提出は、教職研修班宛てデスクネッツメール（ウェブメール）で提出すること。

中堅教諭等資質向上研修に係る在職期間について

〈在職期間例〉

■在職期間とは

国立、公立又は私立の学校の教諭等として在職した期間のこと。他県での在職期間も含む。  
 ※宮城県では在職期間10年を経過した11年目に当たる年度に中堅教諭等資質向上研修を実施。  
 (ただし、幼稚園教諭(保育教諭)は、8年を経過した9年目に当たる年度に受講する。)

○在職期間とみなす…産前・産後休暇、病気休暇、育児短時間勤務、大学院修学休業、指導主事、社会教育主事、教育委員会において学校教育、社会教育に関する事務従事期間。

●在職期間とみなさない…育児休業、退職、停職、職員団体の専従、配偶者同行休業、臨時的任用期間(講師等)

※中堅教諭等資質向上研修に係る在職期間は、「当該年度ごと」に在職期間としかどうかを判断して計算する(下記例参照)。

例1 研修対象

\*太枠は在職期間該当を示している。

年度採用後の年数 在職年数	H28 1年目 1年	H29 2年目 2年	H30 3年目 3年	R元 4年目 4年	R2 5年目 5年	R3 6年目 6年	R4 7年目 7年	R5 8年目 8年	R6 9年目 9年	R7 10年目 10年	R8 11年目 R8 中堅研 実施
------------------	------------------	------------------	------------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-------------------	----------------------------

例2 研修対象(除算期間あり)

除算期間

H28 1年目 1年	H29 2年目 2年	H30 3年目 3年	R元 4年目 休職	R2 5年目 4年	R3 6年目 病休	R4 7年目 7年	R5 8年目 8年	R6 9年目 配偶者 同行休業	R7 10年目 9年	R8 11年目 R9以降 対象
------------------	------------------	------------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	--------------------------	------------------	--------------------------

\*休職を含め3回の休みはあるが、年度全体の休みでないため、除算しない。配偶者同行休業をした期間が1年以上あるので、その期間の年数(1年未満の端数があるときは、これを切り捨てた年数)を除算する。

例3 研修対象(除算期間あり)

除算期間

H28 1年目 1年	H29 2年目 2年	H30 3年目 休職 (5+7か月)	R元 4年目 産休	R2 5年目 育休 24か月 (4 + 12 + 8か月)	R3 6年目 5年	R4 7年目 6年	R5 8年目 7年	R6 9年目 大学院修学 休業	R7 10年目 8年	R8 11年目 R9以降 対象
------------------	------------------	-----------------------------	-----------------	--	-----------------	-----------------	-----------------	--------------------------	------------------	--------------------------

\*12か月連続休職だが、年度をまたぐため年間除算しない。

\*4年目の4か月と6年目の8か月は切り捨てたので除算しない。

留意点

- (1) 年度初め4月1日から翌年の3月31日まで継続した場合(12か月) → 「1年除算」
- (2) (1)からさらに継続して2年(24か月)以上ある場合 → 「2年除算」
- (3) 1年(12か月)未満の場合 → 「在職1年」 ※除算しない。

## 校内研修報告書

学 校 名				職・氏名	
これまでの寄宿舍指導員としての経験を踏まえた個々の課題					
日	月/日 ( )	指導者 職・氏名	研修形態	時間	個々の課題に関して設定した研修内容
1					
2					

注 研修形態の欄は、講話・講義・協議・実習等の区分を、時間の欄には、1時間を単位として数字を記入する。

今年度の研修を通して身に付いたこと

今後の研修課題

上記のとおり報告します。

学校名  校長  令和  年  月  日 (公印省略)

記入例

校内研修報告書

学 校 名	〇〇〇〇〇〇学校	職・氏名	〇〇〇〇〇〇 ・ 〇〇 〇〇
-------	----------	------	----------------

これまでの寄宿舍指導員としての経験を踏まえた個々の課題

これまでの寄宿舍指導員としての経験を踏まえた個々の課題を、具体的に記入してください。

日	月/日 ( )	指導者 職・氏名	研修形態	時間	個々の課題に関して設定した研修内容
1	4/24 (金)	校長・〇〇〇〇 教諭・□□□	講話 講義	2	・中堅寄宿舍指導員としての役割 ・教育相談について
	10/22 (木)	養護教諭・△△△	講義	1	・救急救命法について
2	7/3 (金)	教諭・●●●● 教頭・■●●■	講義 講義・協議	1 2	・学校と地域との関わりについて ・組織力の向上について

実際に実施した期日・内容を記入してください。複数日に実施した場合は、実施した期日・内容をすべて記入してください。

注 研修形態の欄は、講話・講義・協議・実習等の区分を、時間の欄には、1時間を単位として数字を記入する

今年度の研修を通して身に付いたこと

校内研修について、どのような学びがあったのかを具体的に記入してください。

今後の研修課題

寄宿舍指導員としての自分自身のこれからの展望を含めて、記入してください。

上記のとおり報告します。

令和 〇 年 〇 月 〇 日

学校名 〇〇〇〇〇〇学校

校長

〇〇 〇〇

(公印省略)